

河野地区タウンミーティング

平成25年2月25日（月曜）

【市長】 皆さんこんばんは。今日は月曜日の夜でございます。平日の夜ですのでもちろんお仕事があった方もいらっしゃるかと思いますが、このように多数の方がお集まりになっていただきましてタウンミーティングが開催できます。河野公民館の久保田館長さんをはじめ地区の役員の皆様にはタウンミーティングの開催にご協力をいただきました、まことにありがとうございます。さてこのタウンミーティングでございますが、私が就任をさせていただき、平成22年の11月30日に初登庁いたしました。早速1月から。どちらが楽かという市役所で皆さんが来られるのを待ってたほうが楽です、そうじゃなくて各地区にはそれぞれお困りの点があるでしょうから、それを我々のほうが出ていってそしてお声を聞かせていただくということで、平成23年の1月から始まりました。松山市は41地区に分かれるわけですけど、その地区ごとに開催しようということでやってまいりました。今回が41地区目ということで河野が最後でございます。実家のある河野を最後にすればいいというわけではございませんで、調整の中でたまたま最後になったということですので、ご了承いただければと思います。そしてこの松山市のタウンミーティングの特徴でございますが、まず職員に対してしんどいことをしよう、我々のほうから出かけさせていただこう、そして声を聞かせていただくというのが一つ。そして、ここでいただいた事柄について、お話できることはもうここでお話を、お答えできることはここでお答えをする。中には持ち帰らなければいけないものもあります。例えば国と絡むもの、県と絡むもの、財政的な問題があるもの、こういうものについてはいったん持ち帰らせていただきます。そして国に問い合わせる、県に問い合わせるなどしますと返ってくるのに1週間くらいで、また松山市の方針を決めてということで、大体1カ月をめぐり必ず地区に返答する、お答えをお返しするというのが松山市版のタウンミーティング。ここで聞いてるふりをする、ガス抜きをするというのではありませんで、やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしないのはこの松山市版のタウンミーティングの特徴でございます。さて松山市の仕事は大変広範囲に及びます。もちろん私で答えることができるものはここでお答えしますが、それ

ぞれの専門家、今日は担当の部長、企画官が来ておりますのでご紹介をいたします。

【市民部長】 皆さんこんばんは、市民部長の三好と申します。このタウンミーティングを統括しております。普段の仕事としましては窓口における行政サービスの提供、市民課とか22支所7出張所、サービスセンター、パスポートセンター、消費生活センターというところで皆様に行政サービスを提供させていただいております。そのほかに人権啓発とか男女共同参画、地域における住民主体のまちづくり等幅広い仕事を行っております。今日はよろしく願いいたします。

【保健福祉政策課長】 皆さんこんばんは、保健福祉政策課長の津野と申します。保健福祉部では国民健康保険とか介護保険、高齢福祉、保育、子育てなどを担当しております。市民の皆様の健康増進そして福祉の充実に努めております。本日はよろしく願いします。

【都市政策課長】 皆さんこんばんは、都市政策課の白石と申します。都市整備部では道路、公園等の整備および維持管理を行っております。本日はどうぞよろしく願いします。

【生涯学習政策課長】 皆さんこんばんは、教育委員会事務局生涯学習政策課長の前田と申します。教育委員会では皆さん御存じのとおり、次代を担う青少年の健全育成、また公民館での生涯学習の推進、こういったことに取り組んでおります。今日はよろしく願いいたします。

【消防局企画官】 皆さんこんばんは、消防局企画官の岡本と申します。火災救急救助そして自然災害、地震、風水害等を担当しております。また地域の自主防災組織も担当しておりますので、本日はよろしく願いいたします。

【市長】 という今日は5人でございます。このタウンミーティングの流れですが、まずはテーマ1「河野地区の魅力について」、このタウンミーティングでは各地の魅力についてまず話をさせていただきます。それはなぜかという各地区には魅力があります。41地区それぞれに魅力があって、特徴があって、歴史があります。その魅力が一番知ってるのは、感じてるのはやはりそこに住む皆さんが一番魅力を知ってる、感じてると思います。その魅力を生かしたまちづくりをできればその地区はなお輝くということが言えると思います。行政が主体になって41地区のまちづくりをしてしまったら、どこも同じような金太郎あめのような地

区ができてしまうばかりで、そうじゃなくて各地区の方が自分の地区の魅力について再認識をしていただいて、そしてそれを生かしたまちづくりをできればという思いで、まず魅力について話をさせていただこうと思っております。こういう形で進めさせていただいております。そしてテーマ2、テーマ3ですけれど、各地区でそれぞれお困りの点があると思いますので、それをぜひ聞かせていただけたらと思っております。いつも90分間かけて、大体8時半くらいまで。さすがに90分ですので肩ひじ張っていると疲れてしまいますので、どうぞ肩ひじ張らずにざくばらんな話し合いができればと思っております。今日は河野地区のまちづくりに向けて前向きな議論ができればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

【男性】 まず初めに河野地区の魅力について話ということなんで、河野地区は魅力がたくさんあって、少しの時間しかないので私なりに簡単にまとめて話をしてみたいと思います。まず初めに本日は公私ともに大変お忙しい中にも関わらず市長さんをはじめ松山市の幹部の方々が河野地区までおいでいただきましてありがとうございます。また地元の河野地区から60名近くの方々がお集まりいただきありがとうございます。先ほど市長さんの話にもありましたが、タウンミーティングも本日の河野地区で最後になると聞いております。市長の出身地である河野地区は環境がよくて住みやすく、また歴史的に見ても重要なところですよ。本日のミーティングはスムーズに、また有意義に運営できる材料にさせていただけたらと思ひまして、初めに河野地区を紹介したいと思ひます。まず第一に自然環境に恵まれ住みやすい河野地区です。東は霊峰高縄山から西は瀬戸内海まであります。面積は旧北条市の約4分の1を占めています。南側には高山川、北側には河野川と大きな川が二つあります。山間部ではかんきつが栽培され平地では二つの川水を農業用水に利用し水田が広がっています。また瀬戸内海ではきれいな海でしか住めないといわれているイカナゴなどの魚がとれています。高縄山があるためか台風の被害も少なく温暖な住みやすい地区です。第二にロマンあふれる歴史の河野地区です。住みやすい地区のためか古くから人々が暮らしていました。各方面で土器などが出土しています。現在北条ふるさと館で開催されています北条の歴史の中で片山別府常保免の善応寺の遺跡から出土されたものが展示されています。また忘れてならないのは伊予国きっての豪族河野氏の発祥の地です。善応寺や高

繩寺などに古文書や書籍があり、ほかにも河野氏に関わる史跡や文献が数多くあります。また一遍上人は河野地区で生まれたのではないかとされています。第三に文化教養ある河野地区です。近江聖人と呼ばれる中江藤樹は10歳から13歳の4年間、柳原で生活していました。その4年間の勉強や経験が聖人といわれる基礎になったといわれています。柳原には「中江藤樹先生立志之地」と書かれた石柱が建てられています。俳句も関係が深い地区です。あの有名な高浜虚子が西ノ下に住んでいたそうです。その場所に虚子の句碑が建てられています。仙波花叟や白石兎遊など多くの句碑や歌碑が建てられています。最後に第四として笑顔のあふれる河野地区です。河野地区では公民館が中心となって住民が集える多くの活動をしています。公民館まつりでは保育園、幼稚園の園児そして河野小学校や北条南中学校の児童、生徒の作品展示や参加により、住民の明るい笑顔を見ることができます。また小学校では河野地区のお年寄りや青年の協力により総合学習が実施されています。先日の第57回松山市公民館研究大会で元気の出る実践事例として、地域の安全を守るため私たちも活動していますという発表を久保田館長はしました。これは河野小学校や北条南中学校の児童、生徒などにより交通安全のメッセージをドライバーに伝える活動です。以上まだまだ魅力はたくさんあるんですけど、意見交換の時間が少なくなりますのでここで終わりたいと思います。有意義な意見交換をお願いします。

【市長】 はい、よく言うんですが確かに愛媛、松山は東京や大阪に比べると派手ではありません。地方都市ではありますけども地方都市に長いこと住んでると、うちのまちには何にもないって言うてしまう方がいらっしゃるんですけど、そうではなくて松山にはいろんな宝がある。河野地区には高縄山もある、きれいな瀬戸内海もある、今日は中学生、ありがとうございます出席してくれて、かわいい参加者もいますけど、わかりやすく話しましょう。瀬戸内海は日本で初めて国立公園に指定されたところです。霧島国立公園、雲仙国立公園そして瀬戸内海国立公園、日本で最初の国立公園が我々の目の前にある。そして神社仏閣もあって文化もあるところがこの河野地区ですので、宝はいっぱいあるんです。ですので宝を皆さん今再認識をしていただいた、宝がいっぱいあるところです。それをとらえたまちづくりをしていただくことが河野地区にとってよいことだと思いますので、またお願いします。今日41地区目のタウンミーティングですが、最初タウンミーティン

グをやり始めるときは、市長の任期は1期4年、48カ月なんで1カ月に1回のペースで回ったら1期4年の中で回りきれると思っていたんですけど、おかげさまで今日もそうですけど、できることからすぐ市政に反映しますのでおかげさまで好評いただきました。ですので2年2ヶ月で全41地区回ることができました。私が市長をやらせていただいている間は、ずっと回り続けようと思っておりますので、2巡目もやるつもりでおりますので、またよろしく願いいたします。

【女性】 簡潔に3点あるんですけど、述べたいと思います。まず1点目は、今本当に仕事探してる方が結構多いと思います。管轄が違うと思うんですが、ハローワークとかで置いてある求人票とかを、支所とかでも置けるようになったらいいのではないかと思います。それと2点目ですけども、河野地区は皆さんが助け合うところなんです。例えば玄関にかぎを閉めなくても安心して出ていけるところもある地域です。そういう地域の特性を生かして、助け合える、例えば公民館とかで地域の向上支援員みたいなのを置いて、要望があれば言うことができる体制、そういうのもできたらなと思いました。最初は要望があったら掲示するところから始めてもいいんじゃないかと思います。3点目ですが、私の住んでるところで、祖母が倒れたときに救急車来てもらったんですけども、道がすごく狭くて、救急車をとめてそれから自宅まで来るのに2、30分もかかったんです。小型のがあれば、もっと早く迅速に救助もできるんじゃないかと思います。以上の点をお願いしたいと思います。

【市長】 これは、救急車のほうからちょっといきましようか。

【消防局企画官】 はい。救急車の小型化についてですけど、軽症患者の搬送業務だけでしたら一定の装備が必要ないですから、軽自動車でも搬送できると思うんですが、救急車が必要となると重症患者とか重篤者を対象にして、最悪の事態を考えた装備を積載してます。ですから高度救急装備と救急救命士の資格を持った救急隊員3名が搭乗して、救急車が到着して早く処置をするために、一定の装備を備えた救急車と救急隊員が行く体制を松山市は整えてますので、軽自動車で行って手当ができない環境よりは、高規格の救急車が行って、1分でも早く対応ができる体制をとるために普通車のハイルーフ型のワンボックスカーを改造して、これも全国主流なんですけど、そういった車両で対応するようにしておりますので、軽自動車の救急車については現在のところは考えておりません。北条の山間部に

については、消防署の北条支署が、PA連携といいまして、消防隊と救急隊の連携でそういった搬送困難なところは救助隊員が行くとか、そういう体制を整えてますので、20分、30分はかからないと思います。松山市、年間2万件を超える件数があるんですけど、平均到着時間7分です。かかるところは、中島あたりは船で行って船で連れて帰りますので、そういったところはあるかもわかりませんが、なるべく早い時間で対応させていただきますのでご了解していただけたらと思います。

【市長】 あと支所に求人票。

【市民部長】 確かにおっしゃっている意味はよくわかります。ただ、今ハローワーク、国の取り組みでやっております、本当は松山市内であれば簡単にハローワーク行けてそういう利用できるんですが、離れているとそこまで行けないと。そうするとパソコン等でできれば検索できてすぐわかるのになど、おっしゃることよくわかります。ただ国の仕事なんで、市の行政が扱うことできませんけど、今権限移譲でハローワークを基礎自治体にくださいという話もしておりますけども、そのあたりのおっしゃってる趣旨を、また我々のほうで何とか思いが伝わるようにさせていただきたいと思います。ただ現状の支所でパソコンを置いて検索するというのは、業務として扱えないですから、この点だけご理解いただきたいと思います。ご提言の趣旨はよくわかりますので持ち帰らせていただきたいと思います。

【市長】 そして公民館に支援員を。

【市民部長】 すみません、今おっしゃったのは、困ったときに公民館でいろいろなアドバイスをしてほしいという受け取り方でよろしかったでしょうか。

【女性】 あの見れるような感じで、身近で触れるように、できるだけ求人があれば。かなり違うんじゃないかと。

【市民部長】 求人の問題ですね、はい。それも含めまして持ち帰らせていただきたいと思います。

【市長】 二つ目に言われたのはそのことでいいんですかね。

【女性】 公民館に、例えば地域の向上支援員みたいなのを最終形態として置いていただいて、最初は地域の要望を聞く、それを公民館に掲示して誰でも見れる感じにするというところから始めてもいいんじゃないかと思うんです。

【市民部長】 その件につきましては、求職情報とかあっせんとか、そういう権限が国から地方自治体に移譲されることが先だと思いますんで、そのあたりも含めて持ち帰らせていただきたいと思います。

【市長】 確かにハローワークに行かなくても、できるだけ近くで見られるようになるのと便利ですよ、わかりました。

【男性】 質問に入る前に、市のほうにお礼を言いたいと思うんですけども、合併当時、河川水路の関係とか農業土木の関係、ため池等の整備の関係について、着実にやっていただいとる。それと県下で一番ですかね、負担金が少なくて済んだらということ、本当にお礼を申し上げたいと思います。二番目ですけど、最初に説明がありまして、河野のよい点というのは数多くあるんですけど、これを生かしたまちづくりと申しますか、それが出せてないと。例えば観光面であるとか、農林水産業、これを本来であれば地域で考えていかんといかん内容であると思うんですけども、そういった切り口とか、仕掛け人、プロデューサー、そういった人材の育成について、今後市からご指導もいただいたらと思います。2点目が、河野小学校の前に明治から大正にかけて造林事業を実施をしとる記念碑があるんですけど、これが下に4、5メートル、幅が2メートル、その上に高さが4メートル余り、幅2メートル、厚みが30センチくらい、そういった石碑がありまして、震災のときには子どもたちが周囲におれば危険だといったこともありまして、今回の改築にあわせまして、移転をしたらどうであろうかというご意見がありまして、教育委員会にもお願いをしましたら、費用は出るように返事をいただいておりますけれども、移転先、どこがいいかな、文化の森あたりがどんなかなということで、調整をお願いしたいと思います。3点目が、最近防災面で津波の避難のこともありまして、ちょうどこの西側に龍徳寺山、片山、お墓があって、そして西、北にはため池が二つあるんですけども、これらの整備もやるようにはなっております。標高が2、30メートルありまして、避難地にも適しておると考えられますんで、里山整備、避難所を兼ねて整備ができないかと。3点お願いしたらと思います。

【市長】 そうですね、今日は中学生も来られてます、河野小学校の出身ですか。はい、私も家が近所なので。河野小学校の前には大きい碑がありますね。あのことですけど、前田企画官、どうでしょう。

【生涯学習政策課長】 小学校の前の記念碑ですけど、ちょうど河野小学校、平成24年、25年2カ年で校舎の改築、耐震化の補強工事を行っているんですけども、先ほどおっしゃられた記念碑については確かに基礎の具合が非常にわかりにくいということで、震災等での安全面についてどこまで担保できるかがはっきりしていないということがございます。また改築の設計上、地域とか学校のご要望等で、今の記念碑が建っているあたりが正門にくるという方向で今作業を進めておりますので、記念碑に関しましてはどこかに動かそうかなと。ただこの記念碑につきまして、所有者といいますか管理者がわからない、過去からの経緯でちょっとわからないというのが、地元の方からいろいろお聞きすると、わからないということがわかってると。

【市長】 あの碑は持ち主がわからないと。

【生涯学習政策課長】 今担当課としましては、学校とか地域とか土地改良区とか、そういう地域の方々の総意の中でとりあえず動かして、動かした先ではきちっとした補強をし、安全を確保する方向で今考えておりますが、皆様方からのご要望として、文化の森への移転はどうかということなんですが、文化の森が公園緑地課とか国際文化振興課とかスポーツ振興課とか、それぞれ所管が分かれておりまして、地域のご要望を学習施設課のほうへいただきましたら、市役所のほうでどこでできるか、もし文化の森が難しいようであれば、学校の敷地内のどこかにきちんと移設をした上で管理をしていこうと。大体年度末を一つの期限にした上で、それまでには所有者とか管理者がわからないか確認しつつ、地域の方々のお声も聞いた上で移転先も決めたいと考えておりますので、どこに持っていかは役所内部で検討させていただいた上で返事もさせていただこうと考えておりますので、ご理解いただいたらと思います。

【市長】 いつぐらいまでに。もう区切りますか。

【生涯学習政策課長】 一応年度内に。

【市長】 年度内。つまり3月31日までには、もう持ち主がわからなければ動かす、どこかに動かすという形ですね。

【市民部長】 それでは私から2点。農林水産業に係る人材育成というお尋ねと、ため池の整備、里山の整備ということですね。まず最初の人材育成ということですけど、確かに生産年齢が高齢化とそれから担い手不足によりまして農地が荒れ

ているということがございます。それで一番大事なのが人材育成というお尋ねですけど、今現在、農林水産課では人・農地プランを作成して、地域の皆さんと農業関係者と将来に関する話し合いを行って、農業の新たな展開を見出すという取り組みをやっております。北条地域でも正岡とか難波とか浅海で担当課が地域の人と話し合っただけでプランをつくってありますので、ぜひ農林水産課あるいは近くのJA営農支援センターにお問い合わせいただきましたら、具体的な交流ができると思います。それともう一つ里山整備。

【市長】 いわゆるお墓山の向こう側にため池が二つありまして、今日は中学生の方も来られてるんで、わかりやすく。松ノ木池と片山新池のことですかね。ここは、県のほうでため池整備が行われてますよね。

【市民部長】 そうですね、松ノ木池につきましては愛媛県が平成17年に改修を終えております。それから片山新池につきましては国の国庫補助事業の採択を受けて、平成29年度の完成を目指すということで、今現在計画はしているところです。

【市長】 整備は何らかすることになっていると。

【男性】 池と池の間の山林について、里山整備ができないか。避難地を兼ねたような。遊歩道をつくったり、間伐をしたり。

【市民部長】 もし道を整備するのであれば、農林土木課に改良区のほうから相談していただきますと、どういう形になるかというのは具体的に相談できると思います。

【市長】 避難場所のことについて、岡本企画官から河野地区の避難所について説明してもらえますか。

【消防局企画官】 河野地区には、避難所に指定している施設は14カ所あります。そして一時避難場所につきましては5カ所あるんですが、一時避難場所にこの公園を指定してはどうかということですが、災害のときに、津波とかまた地震が発生した場合、火災が発生して避難する場合も一時避難場所に緊急的に避難しなければならない場合がございますので、そういった条件に合うかどうかは、公園の整備環境とか位置とかを見極めまして、指定するかどうかという判断はさせていただきますので、ご理解いただいたらと思います。

【市長】 今日、子どもさんも来られてるんで、わかりやすく言います。避難所

と一時避難場所って出てきたんで、皆さん混同しやすいと思いますけども、避難所というのはどっちかという長いことおるところです。例えば宿泊をする、食事を食べるっていうのが避難所になります。一時避難場所というのは、本当に一時的に避難する場所です。文化の森の中の河野別府公園とか、西ノ下児童公園、柳原ですね、善応寺の農村公園、河野公園、河野中須賀緑地が一時避難場所になっております。言われたのは一時避難場所のほうでしょうか、それとも避難所のほうでしょうか。長いほうのイメージですか、短いほうのイメージですか。

【男性】 短いほうです。

【市長】 わかりました、短いほうだったらまだ比較的話は簡単かと思えますんで、持ち帰らせていただいて、実は避難所が河野地区には14カ所、一時避難場所は5カ所あるわけですけども、検討させていただいたらと思います。持ち帰らせていただきます。

【男性】 これは国との関係になると思うんですけども、社会保障の面で、介護と医療。市のほうは健康体操したり健康診断やったり力入れてくれてるんですが、ただ今状況見るととにかく個人的にあんまり努力されてないかと思うんです。それで私は勝手なことになるんかもしれんのやけど、やはり努力して、1年間医者のお世話にならん、介護の世話にならんという極端な話なんですけど、そういうことがあった場合に、ちょっと何かやっぱり増やそうと思ったら、これから高齢者がすごいですから、松山市でも相当増えよると思います。私のところもどんどん年いった人ばかりで、ずっとケアサービスに行きよる。そこらどんどんこれから足らんになるとか、国との問題もあるんですけど、ただ報奨言うたらあれやけど、1年間お世話にならなんだら何か恩典があるようにすると、ひよっとしたらそれもだいぶ減ってくる、少しでも減ってくるんじゃないかと思うんですけど。

【市長】 ありがとうございます。これは興味深いアイデアをいただきました。1年間例えばお医者さんにかからんかったら何か特典が出る。これはおもしろい取り組みだと思います。ちょっとご説明をさせていただくと、全国に松山市のような市はいくつあるかという、およそ800あります。松前町とか砥部町とか、町は全国におよそ800あります。もう愛媛県には村はなくなりましたが、以前は別子山村とか新宮村ってありましたけど、全国におよそ200あります。全国には1,800の自治体があります。それぞれの自治体が例えば医療費がかな

り上がってる。ちょっとまた後で歳出の話をしませけれども、各市町村は出ていくお金のことで、今とても頭を悩ませています。どうやったら市民の皆さんにもっと健康診断を受けてもらえるか、がん検診もっと受けてもらえるか頭をひねっています。それは1,800の自治体の中で松山市だけではありません。全国の市町村が頭を悩ませています。こういうことは全国で頭を悩ませてるんですから、一番よく考えてもらわないといけないのは国です。社会保障と税の一体改革とか、社会保障制度改革国民会議っていうところでどうやったら税金の問題と社会保障の問題を解決できるだろうかって、今国で会議をやっているところです。今とにかく福祉にかかるお金が増えている現状があります。とても興味深い取り組みなので、今のご提案は持ち帰らせていただこうと思いますが、1年間に出ていくお金を歳出といいます。片や入ってくるお金は歳入といいます。松山市の場合、土木費とか教育費とか衛生費とかいろいろあるんですけど、一番大きなウェイトを占めてるのが民生費、いわゆる福祉にかかるお金が一番大きなウェイトを占めています。およそ40パーセント。松山市一番大きなウェイトを占めているのが福祉にかかるお金で民生費、40パーセント超えます。これが松山市だけで1年だけで50億円増えたんです。今国は1千兆円の借金を抱えてるっていわれています。国から地方に、地方交付税交付金とか国庫支出金っていう形でお金が回ってくる。でも大元の、簡単に言うと仕送りをするほうが大きい借金を抱えていては、送られてくるお金がこれから増えるというのは考えにくいですよね。そういう中で福祉にかかるお金が50億円増えたならば、50億どっかで絞らないと、財政のバランスが悪くなるだけです。そして皆さんよく聞かれるこの民生費の中には生活保護費というのがありますけど、生活保護費、これはまさに生活に困窮している方にとっては非常に大事なお金です。セーフティーネットですから非常に大事なお金ですけど、この生活保護費が松山市だけで1年だけで15億円増えたんです、決算ベースで。松山市だけで1年だけで生活保護費が15億円増えた。これは手をこまねいて見ているわけではありません、他の財政を圧迫してしまうといけませんから、例えばケースワーカーが職を求めている人と一緒にハローワークに行って職につけるようにできるだけ努めるとか、できるだけジェネリックの医薬品を使っていただいて医療費を適正化するようにするとか、様々やってるんですけども、今国の景気が非常に悪いもんですから生活保護を申請する方が増え

ているということで、15億増えている、こういう状況なんです。片や厚生労働省が出しているデータがありまして、皆さんもよく歩かれますかね、歩いていただくことが大事なんですよ。国民の皆さん一人一人が1日3千歩歩いていただいたら、2,700億円の医療費が削減できるっていうデータがあります。3千歩、大体2キロくらいです。朝に1キロ、夕方に1キロくらいでもいいですね。1日2キロ歩いていただいたら国全体で2,700億円削減できる、皆が健康になるし2,700億円削減できたら別のところでお金が使えるんです。ということで皆さんにできるだけ健康になっていただくということをやっております。今、松山市では花園町の社会実験、秋にありましたけどもっと歩いていただく方に配慮したまちづくり、自転車の方に配慮したまちづくりをしようということでやっているのが花園町の社会実験です。松山は晴れが多いまちです。雨が多いまちですと歩いてください、自転車で走ってくださいって言いにくいですね。松山は平坦な部が多い。坂の多いまちだったら自転車で走ってください、歩いてください、なかなか言いにくいです。これから少子高齢化で高齢化してくると、視力が落ちてきた、運動能力も落ちてきたということで免許の返上もしなくちゃいけない。そういうときに車がないと生きていけないっていうまちだと困るんですけども、松山は市内中心部に路面電車がある、郊外電車もある、バスもある、JRが走っている、公共交通が発達しているまちです。今申し上げた、晴れが多い、坂も少ない、そしてまちの機能がお城山の周りに、病院もある、大学もある、県庁もある、市役所もある、銀行もですね、都市の機能が中心部に集まっているのが松山なんです。ですので歩いていただく、自転車で走っていただく、公共交通使っていただくっていうまちづくりができるところなんで、そういうまちづくりを目指していきたいと思ってるんですけども、やはり皆さんに健康になっていただくのは大事なことですから、いいご提言をいただいたと思います。体が悪くなって家でずっとおられるより、ちょっとでも歩いたほうが改善が早いそうです。ですので歩く人、自転車の人に配慮したまちづくりを。例えばお子さんと手をつないで歩いている、お母さんとぱっと手を放した瞬間に自転車と混在して自転車と当たって大きな事故になる例もあります。もっと歩行者に配慮した、自転車に配慮したまちづくりを、これから将来少子高齢化の時代をにらむと大事なことはないかということでやらせていただいております。

【男性】 地域の振興に関わりますけれども、文化財行政と観光行政について所見を述べたいと思います。河野の町は、皆様御存じのように二つの川が流れております。水理原理という古書で見ましたら、さんずいの河（かわ）ということですから、きれいな水が流れてそして豊かな里というのが出自だと思うんです。河野という中世に活躍しました河野氏の本拠地は今の善応寺のあたりだということのはっきりしております。その跡地に今、大きな伽藍が建っていたわけですが、天正年間、今から425年ほど前に豊臣軍によってこの氏は滅び、寺はなくなっております。しかしながら、文化財の指定を受けております県市の文化財が若干残っておりますし、昨今皆さん方も見られたかと思いますが、バイパスの府中の交差点のところ松山歴史文化道、善応寺という看板が愛媛県も含みまして、四国四県と四国地方整備局あるいは運輸局、各種団体が松山歴史文化道を設定して、この風早には庄の薬師堂と鹿島と善応寺があるわけです。河野地区には善応寺がこの文化道に指定していただいております、看板をあげていただいて、昨今、松山市の文化財課あるいは考古館、あるいは社会教育の文化、公民館活動といった他の市町村からも県外各地から河野氏の関係の方々、バスで参拝、拝観に来られる方が非常に増えて大変喜んでおります。多いときでしたら6回ぐらい月に来られます。そこの前の湯山高縄線の県道が広くなりましたので、善応寺まで大きな大型バスが上ってまいります。ところが、木戸工務店のところからは、マイクロバスがぎりぎりでしか上がれない。そして、松浦商店のところにも松山歴史文化道、善応寺と看板は掲げていただいとるんですけど、そこも乗用車がやっと来れるというようなぐるぐる回っております。来れる方々の言葉の中に、「せっかく松山文化の歴史の文化道、こんなごちゃごちゃした道なのかな」あるいは「本堂にバスを置いて車が通れないような、場合によっては、あぜ道のようなところを歩いて暑い夏に歩かないといけない、雨のときは大変だな」という声も聞きます。申し上げたいのは、そういう他の地域からたくさんの方が善応寺へおまいりに来ていただくことになりました。そういうことで善応寺のあたりは非常に活性化しとるわけです。多くの家が建っております。ただ、道が部分的に狭すぎて、できるならば文化財もありますので、火災のことも考えまして、道の拡張を少ししていただいたらということをお北条市の段階から申し上げておまして、ほぼできつつあるような状況にも一時ありましたけれども、今そのままずっととどまっ

ておる現状でございます。何とかならないかと思っておりますので、ちょっと考えていただいたらと思います。

【市長】 わかりました。道路のことは、これは白石課長。

【都市政策課長】 ただいまのご質問の道路整備についてですが、この整備につきて、今年度、24年度現在整備するための測量を行っております。測量した後、今後、道路整備に向けた具体的などという形の道路をつくるか、地元の方と協議させていただきながら進めさせていただきたいと思っております。よろしく願います。

【男性】 北条には69名の民生委員さんがおります。河野は11名です。その中で福祉のほうなんですけど、今この河野地区でも孤立または孤独かわかりませんが、そういうことが河野にも起こっておる。そして、松山市内においては、すでにそこそこで起こっておる。これは民生委員の会合の中でも出てくるわけですが、民生委員だけではちょっと無理が出てくるのかなと思うんですが、地域の人たちの協力を得て、ネットワークづくりということは云々されておるようですが、その辺のところ説明していただいたらと思うんですが。よろしく願います。

【市長】 はい。これは私が思い入れのあるところですので、私から説明をさせていただきます。ネットワークという言葉が出ました。松山市高齢者みまもりネットワークというのをつくっております。それは、例えば郵便局の方、ポストを見たときに新聞がずっとたまると、「何かあったんじゃないか」とか、リビング新聞の方もそうだったと思います。そういう日々、家に行くような会社の方に見守りネットワークに入らせていただいて、高齢者の孤独死、異変を防ごうというのができておまして、今19の団体さんに入らせていただいておられます。そのようなことをさせていただきます。あと、孤独死を防ぐための方法として、77歳以上のひとり暮らしの高齢者の方を対象に、週2回乳酸菌飲料をお届けして安否確認を行う、孤立感の解消を図るとか、65歳以上のひとり暮らしの高齢者の方、また高齢者のみの世帯、いわゆるご夫婦で高齢者だという世帯には、1日1食バランスのとれた食事を提供することによって安否確認を行うとか、独居高齢者みまもり員が定期的に声かけ訪問などによる安否確認を行うとか。実は昨年1月、2月ぐらいに全国で孤独死が相次ぎまして、何とかできんのかという思

いで集まってもらって、チーム松山市で動いて今の形ができております。そういう不幸な例をできるだけ起こさないように、皆さんでネットワークつくっていきたいと思います。でも、やっぱりパーフェクトな組織というのはありませんから、一番ご近所の方が気づく目を持っていると思いますので、そういう組織ができたから大丈夫というのじゃなくて、ご近所の方が気をつけていただくようにするのが大きな手だだと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

【女性】 私は子どものことについてお聞きしたいと思います。主任児童委員をしております、子どもたちに関わっております。このあたりの子どものことに関しても、幼児につきましては、幼稚園関係でもジュニアクラブができたとか、公民館関係でも親子の料理教室とか、生け花教室とかいろんなことが事業をしておりますし、そういった意味では少しずつ活性化しているんじゃないかと思うんです。ですが0歳から18歳の子どもたちに関しては、まだまだ活用できる場、自由に利用できる場がなかなか少ないんじゃないか。以前、北条市るときより主任児童委員として、児童館ができたらいいなというのはいつも念じておりました。なかなかいい返答はいただいておりますでしたけれども、やっぱり子どもたちが健やかに育つための環境づくりとして、児童館というのはこの河野じゃなくてもこの北条のあたりに一つはあってもいいのじゃないかなというのを切に希望しております。どうかよろしくお願いいたします。

【市長】 市全体のことに関わるので私から言わせていただきます。今、児童館は松山市内の7カ所にあります。若草にある中央児童センター、新玉の児童館、味生の児童館、空港の方が近いですね、久米の児童館、久枝の児童館、畑寺の児童館、そして新しく平成21年、4年前にできたのが古川にある南部児童センター、はなみずき通りのほうにあります。これで合計7カ所です。児童館というのは、東西南北で核になる施設をつくって、近隣をカバーする形で行っております。今、松山市全体を考える上で、北条地区も有力な候補地の一つということになります。もう少しで公表の時期になりますので、もうしばらくお待ちくださいというところですけど、今言えるのは北条地区、児童館を設置する候補地の有力な一つというふうになっておりますので、今の段階ではそれまでしか言えないんですけども、全体のバランスを見ながらさせていただいたらと思います。確かに児童館あればいいですよ。このタウンミーティングで41地区回らせていただいて

るんですけど、近くに児童館があったらいいなっていう声はいろんなところで出ますので、総合的にとらえて判断をさせていただいたらと思います。

【女性】 河野地区は、昼間とか朝とかは地域の人たちが外に出て、子どもたちの安全を見守ってくれるんですけど、夜になると街灯が少なくて、その片山の道とかもすごい暗くて、塾行ってる中学生が多いので、自転車で通ってる子たちも塾行ったりするときに道が暗くて危ないんじゃないかなと思ってるので、もうちょっと街灯を増やしてもらったらいいかなと思います。

【市民部長】 それは多分実現します。というのは、町内会の方たちまず相談してもらいたいんです。生活の安全上で防犯灯というのをつくってまして、普段、地域の方が管理していただくということ条件で、器具設置するときに松山市のほうで助成させていただいております。今、20ワットの蛍光灯でやっておりますけども、新設についてはLEDでできるだけ明るくして安全性確保することにしておりますので、まず最初にお父さん通じて、区の方に相談してください。それは何でかという、管理することのほかに電気代を負担していただいとるんです。LEDになりますと、非常に電気代も安くなるんですけど、やはり管理という問題がありますので、今度、「塾行くとき怖いんよ、何とかならんやろか」ということを区の方に相談していただいて、その区の方から松山市の市民参画まちづくり課に連絡来ると思いますので、ちょっと時間かかりますけど、待っていただいたらつく可能性がありますので、ぜひ相談してみてください。

【市長】 確か防犯灯というのは、地区の方の思いもあって、ここはつけてほしいとかという例もあるんですよ。

【市民部長】 一番難しい例としては、田んぼの中にあるところでありまして、防犯灯が夜ずっとついてると米ができにくいという方もおられます。いろんな事情があって、あるいは虫が寄ってくるけん嫌じゃという方もおられて、時々、調整に戸惑うんですけど、本当に安全、安心が一番だと思っておりますので、また難しい話になりますと、市のほうでがんばってみますのでぜひ相談してみてください。

【市長】 前を向いてできそうですね。

【男性】 高縄山ですけど、これからどっと人を集めようと思うんですけど、トイレの改修をひとつお願いできるようでしたらしていただいたらうれしいんです

けど。以上です。

【市長】 わかりました。高縄山のことについて、説明をさせていただきます。高輪寺というお寺さんが高縄山にありますね。高縄寺の境内にトイレがあって、それを貸していただいているという状況がある。そして、ちょっと下りたところに高縄山の総合作業所、県が平成14年につくったものですが、県が設置して当時の北条市が維持管理をしている、北条が松山に合併されましたので、トイレは今、松山市が維持管理をしてるんですけど、こういう今、二つのトイレがあります。トイレをつくってもらえないですかというご要望をいただいたんですけど、新しくトイレをつくるとなるとちょっといろいろと調べたんですけども、水洗にするか別の形にするか、水洗が一般的なんですけど、水脈の関係もある。建てようと思ったらですね、場所の問題もありますのと、値段的には試算をすると合計で2千万くらい要る。えらい高いことというなと思われるかもしれませんが、今、松山市がトイレをつくろうと思ったら、体の不自由な方のいわゆる多目的トイレもつくらなければならないというのがあるので、やっぱりそれくらいの額になってしまう。スペースの問題もある、水の問題もあるということから2千万くらいのお金になってしまう。そういうことから、本当はどこか場所を見つけられて、トイレができるほうが利便性は高いのかもしれないですけど、今、愛媛県がつくった高縄山総合作業所にきれいなトイレがありますので、そちらを利用していただくということで、案内看板を1基と方向板5基つけさせていただきます、わかりやすい形をさせていただきます。まずはこの形で様子を見させていただいて、という形でさせていただきます。そんな経緯ですので、説明をさせていただきます。

【男性】 中須賀区に特化するお話でちょっと恐縮なんですけど、松山市におかれましても防災、減災にいろいろ取り組んでいただいておりますが、実は3年前の大みそかの日に、中須賀上地区いうところに防災用のスピーカーの電柱が立っていましたが、これが倒壊するという事案が発生しました。その時点では、大みそかということもあり、中須賀区の皆さんが協力していただきまして、重機を持たれてる方がございますし、撤去させていただいたんですけど、それがいまだに再建されないといった形で、お願いもしておりますけど、防災、減災のためには情報伝達が非常に大切な手段になろうかと思っております。新しく設置すると

いうのではなくて、ケーブルも手前の電柱で残置して巻きつけてありますので、なぜできないのかなど、非常に疑問に思っていますので、防災、減災のためには情報伝達といったところ大切なんじゃないかということでご提案させていただきます。よろしくをお願いします。

【消防局企画官】 放送設備には2種類ございまして、防災行政無線といいます電波で放送ができる設備、これ北条地区には80カ所電柱が立ってスピーカーが設備されてます。それと80カ所から、今度、有線を引っ張って90カ所、孫局といまして、スピーカーが90カ所ございます。防災行政無線は、有線が断線した場合でも、電波で即座に情報が送れる、そしてまた公民館、集会所のほうから、被災地のほうから対策本部に情報が送れるという電波で放送、情報伝達をする設備。倒壊した設備は大変お世話になったんですが、これは有線の地区放送設備です。今、電波法の改正によりまして、デジタル防災行政無線を23、24、25年度で松山市と北条地区、全地区整備しております。その80局の中須賀集会所に直近にスピーカーがあると思います。これは80局の防災行政無線の一つなんですが、そこに当時、地区のご了解をいただいてスピーカーを2基増設しまして、倒壊した方向へスピーカーを設置して、情報は行く体制は現在整えているところですけど、まだ聞き取りにくいようであれば、このデジタル防災行政無線の整備が終わった段階でもう1回調査しますので、そのときに聞き取りにくければまたほかの対策を講じさせていただいたらと思います。よろしいでしょうか。

【市長】 デジタル防災行政無線の整備がもう決まっちゃったから大きくはそこでかえるという予定だったということですかね。

【消防局企画官】 はい、その通りです。

【市長】 北条地区のデジタル防災行政無線が完了するのはいつですか。

【消防局企画官】 25年度の末をもって整備が完了となります。

【市長】 25年度の末ということは、26年の3月までには完了するということですので、近々完了する。つくったら終わりではありませんので、放送設備点検します。その中で、聞こえるか聞こえないかというのを再チェックさせていただきますので、いい形にさせていただこうと思います。

【男性】 今のと同じ内容ですけど補足説明をさせてもらったらと思います。市の防災無線は確かに設置したときのテストはしてました。消防署の職員の方が外

において、聞こえてますという返事をされてました。普通は外において聞くもんですかね、防災無線は。家の中において女性や若い奥さん連中は食事もしよる、子どもの世話もしよる。今までの放送は確かに有線と地区の有線とが一つになってます。河野の場合、特にほとんどの地区が。そしたら地区の放送も全然聞こえない、今現状が。しびれ切らして今年の夏、市役所にも尋ねに行きました。いわゆる集会所のセンターじゃありません、今の新しい集会所。そしたら風方向がもう西側海です。だから地域の放送というのは全然この3年近くは上地区、特に旧北条市の最終年度にフジと中須賀の地域で大規模開発で粟井駅の近くまで80件あまりは家が増えました。その関係で特にその一角、JRから東バイパスまでの間、放送が一切聞こえません。地域の中で有線で延ばすかといったら、使用する電信柱とか問題があってという返事も聞いてます。そして、25年度の完成デジタル化。無線の云々、それまで待てというんですかね。地域の行事ごと一切伝達できませんよ、今中須賀上地区は。中須賀だけじゃないもんですから、そこらのところは再度ご検討願ったらと思います。

【市長】 すいません、事実関係を確認させてください。中須賀の集会所にある子局に夏目地区に向けた屋外スピーカーを追加設置した。それでは今聞こえない現状である。なるほど。これは再チェックをすれば聞こえる可能性があるのか。

【消防局企画官】 はい、地区放送の情報伝達と今危機管理が設置しておる防災行政無線というのは防災の緊急放送用として設置をしておる無線です。その中で防災情報と行政放送両方できると。地区放送もできるという設備なんですけど、なお聞こえにくい場合にはそれ以上の対策を、子局とか携帯用のものを設置するとかいう対策もございますので、緊急情報が聞こえないようであれば最終段階で申し出ていただいたら対策を講じさせていただきますということです。

【市長】 ちょっとこれ大事にしたいので。今、地区の放送は聞こえている。放送はされたことはあるんですか。あるけど聞こえない。

【男性】 例えば一番身近な不幸ごとが起こった、地区内の。そしたらお葬式の日時とかそういうのは一切聞こえないんですよ。だから日常生活に非常に困ってますね。

【市長】 なるほど。これは管轄は消防。この地区の放送は。

【消防局企画官】 緊急放送は消防危機管理が担当しているんですが、まち放送

につきましては関係部局のほうに相談させていただきまして、従来の設備をどうするか等々検討させていただいたらと思います。

【男性】 そうですね。時間の関係もありますから。よろしくをお願いします。

【市長】 わかりました。必ず改善、いい形にするように。

【男性】 今、高山川沿いのJRの踏切を工事しとります。今月末くらいには完了予定なんですけれど、それから西向いて、前の旧国道向いて順次工事をする予定で市のほうが計画をされとんですけれども、それからちょうど今言われたマイクがあったところまでが一応工事区間ですけど、そこから東について今、河野小学校の総児童数の3分の1くらいがその前の道を通っております。その道の幅は狭くて歩道もないですから、またこれから道が広がったときには交通量も増えると予想はされるんですが、今工事ができる計画されるところからバイパスまでの約200メートルくらいの間ですけど、そこの改良計画を順次進めていただきたい。そうしないと道が狭いもんですから、子どもらがいざ事故があつてからの対応では悪いんやなかるかと、そういうお願いをしたいと思います。それともう1点、これちょっと広域で考えてみたいんですけれども今、北条地区がここ数十年人口変わったりしません。約3万前後で推移しとると思うんですけど、このバイパスができて約20年くらいになると思うんですけど、このバイパスの近隣の開発がほとんどできてない、松山の南部地域の国道バイパスが広がったところについては割とその地域の整備というか開発が進んどるんですけども、この城北方面の北条地区についてはバイパスの近隣の整備というか開発が何一つ行われてない。今言うたフジができとる夏目の広域の開発が合併前に進んで合併後に完了しましたけれども、そういうぐらいしかないというところになっております。これ考えてみるのに、都市計画の区域について今、北条地区大体JRまでが市街化区域でそれから外側については調整区域となっておりますので、開発がなかなか進めにくいところもあるんですけども、今、道ができて大半のところの交通がバイパスを通るようになっております。旧道のほうには歩道も整備されてないので危ないところも多々あるかと思うんですけども、都市計画区域の変更とかちょっとこれ広域になって申し訳ないんですけども、この河野だけの話ではないんですけども、そういうお考えについてお聞かせ願いたいと思います。以上です。

【都市政策課長】 まず最初の高山川の右岸の道路の件ですけど、JR過ぎて中

須賀橋までは工事を行います。その後について私もちょっとわからないんですけど、地元要望の道路整備につきましては地元の協力なくしては道路整備はできません。例えば用地の提供なりいろんな問題があるかと思います。そこで今の中須賀橋から国道までの間についての地元の地権者等の、今の計画は5メートルプラス2メートル50の歩道で、また堤防ですからかなりの用地の買収なりが出てこようと思います。そういう中でまずは地元の協力が得られれば、工事の申請書を出していただければ、今後、松山市もいろいろやる箇所ございますので、優先順位とか緊急度を検証しながら事業に取り組んでまいりたいと考えております。それと先ほどの市街化区域がJRでちょうど止まっております。これも196くらいまで伸ばしてもらえまいかというお話ですけど、基本的には今松山市が市街化区域が約7,000ヘクタールございます。そして約1割程度がまだ農地のままで残っております。そういうところがあります関係から、これからも線引きを拡大する方向はございません。今言われた地区におきましては、当然人口はまだ横ばいなんですけど、現実的には区域を広げて宅地化するという考え方は、今松山市では持っておりません。

【男性】 今言われたことで1点だけ、松山市の改良について、現況が4メートル以下の場合、開発のときに後退する分については用地提供が原則であろうと思うんですけども、それ以上に広げる場合、それも用地提供ですか。地元の協力という話の中で。

【都市政策課長】 すいません。ちょっと言葉足らずなんですけど、用地の提供という中で4メートル以上については買収を行います。

【男性】 今、中須賀橋から東、バイパスまで、地元の申請がなかったらいかん、これ重々承知の上の話なんですよ、役員会の中で。といいますのが、旧北条市ときに申請書を出せと地権者の判こを、そして今計画されて道路が順々に改修してくれよる部分については賛同得ましたが、バイパスまでの残り150数メートル、一部片山のがありますから中須賀でいうたら100メートルほど。これについては若干名の方が賛成してくれなかった。当然家がかかります。そういうところまで地元が説明して納得さして地元としての陳情書を上げなんだから改修はできるのですか。そこなんとかご検討お願いいたします。

【都市政策課長】 今おっしゃられる道路につきましては、基本的には日常生活

とか通学路とか緊急活動に必要な生活道路という位置づけです。市民に一番密着した道路ということでやはり市民の皆様の協力なくしてはできません。通常の大い国道とかは行政がやっていますけど、生活道路につきましては、協力なくして行政が主体になって広げることはございません。あくまでも地元の皆さんのご協力が必要だということです。よろしく申し上げます。

【市長】　そこで白石課長、ちょっと確認なんですけど、どうしてもわしはここはもう譲れんのじゃ、もうここは絶対動きたくないとなった場合、行政が例えば説得に回ることができるのかどうか、住民の皆さんは知りたいところだと思います。

【都市政策課長】　そういう場合なら行政も地元の方と一緒にそういうお話は行きます。お話しはできます。ただできるできんは別ですけど。

【男性】　今日もう終わられても遅いですが、また後日時間があれば現場見てもらったらわかると思うんですが。バイパス挟んで南中学までは2車線の道路ができてます。そして今回改修されるのが150メートルほどの片山と中須賀の一部、それから西は今回1車線半で改修されてます。25年度の完了予定で今年が2年目で橋が変わって今JRの今月工期いっぱいです。その間の150メートルが言われたような現状なんです。なんでバイパスまでの東も大きい道路ができとる、西も一部はずして旧国道までできる、その150メートルが地元の役員としても非常に腹立たしいところもあるんです、確かに。もう8年、9年前ですかね。地権者の判こもらって、松山市と合併したら書類が違うからまた再度もらって来てくれと。私両方ともに関係してます。ぜひそこのところをご検討お願いします。

【市民部長】　私、道路建設に4年関わってきた経験から大切なところなんでは言わせていただきたいんですけど、今白石企画官からの説明あったんですけど、生活道路と幹線道路といたしましてバイパスとか市街地にある街路、こういう道路つくるときには、事業認定とか事業認可とったりして強制的に収用って言葉聞いたことあると思うんですけども、本人が反対していても全体の公共のために何があってもその土地を収用してやっつけられる事業があるんです。ところが今言ってる生活道路は、近隣の住民の利便性の向上のためにつくる。通常1車線の道路ですけど、その場合には、やはりその近隣の利益を受ける方の同意がないと強制的に

土地を取り上げてやる事業は難しい。だからそこで皆様方に道路つくるときに土地を提供していただけますか、あるいは家を動かさないといけないときには協力してくれますかというふうに合意を得てつくる道路が生活道路です。ですからそこで判がないといかんいうんじゃないに、難しい方に説明するときには行政が参加するのは、やぶさかではございません。ただし少なくとも地権者の方、それから利益を受ける人が何とかそここのところやってくれという、協力してという努力がないと、やはりなかなか強制的には進めるのが難しいというのがございますので、ぜひご理解いただきたいと思います。

【男性】 心配事なんですけど、消防署が海岸の近くにあって津波が来たときに、消防署が第一番に浸かってしまうんじゃないか、その後の活動が難しくなるんじゃないかという心配事があるんで、消防署が移転する方向に考えられているのかどうか教えていただいたらと思うんですけど。

【消防局企画官】 はい、消防署が3.1メートルの標高になっております。津波想定が従来の2.6メートルから3.5メートルに上がった関係で津波で浸かるといふところになってしまったんですが、昨年出しました国の想定が裏側に堤防が4.5メートルあれば浸からないという国の想定が出てますが、なお6月ころまでに愛媛県が川からの遡上でどういうふうな浸水になるか詳細な想定を出しますので、そういった状況を見極めまして、またあの位置での活動体制とか今後の移転であるとかそういったところを検討させていただいたらと思います。

【市長】 今あそこの北条消防の位置が、旧北条市の中心部に当たるところで旧道沿いのよい場所にあるので、なかなか捨てがたい場所にもあるといふところなんですけれども、また想定が変わればいろいろと検討していきたいと思います。

はい、予定の30分をあえて超えさせていただいて、最後1問聞かせていただきました。今日41地区目のタウンミーティングといふことでさせていただきましたけれども、いろいろ皆様からお困りの点をいただきました。「いやいや、それ市長心配し過ぎよ」って言われるかもしれないけれども、私から皆様にお願いがございます。市長に就任させていただいて2年3カ月といふところなんですけれども、全くの民間から、一市民からこの立場をいただいて思いますのは、北条市役所の書類と松山市役所の書類が違うけん書きかえてや、そりゃそうなのかもしれない

けど、やっぱり市民の皆さんからしたらなんでやろっていう思いはあると思います。そしてまた市役所の仕事というのは、例えば今回の河野地区に来させていたでいておりますけども、市内41地区すべてあまねくということになりますから、やはり全体も見なければいけないという部分もあります。なんかもどかしいっていう思いがあると思うんですけど、それはこれまでの行政がもどかしく思わせてしまった部分がある。今までの市役所はあまり途中の過程を説明してきてなかった。例えば無線のことであっても、こういうことを考えてますのもうしばらくお待ちいただけませんか、ご了承くださいとか、こちらのほうから説明を怠ってきた部分があるのではないかと感じております。1カ月をめぐりに必ずお返事をしますと言いましたとおり、もっと説明をしていかなければ皆様の協力は得られないと思ってますので、これまでに増して説明に努めてまいりたいと思います。皆様方をお願いというのは、市役所は反目する場所ではございません。市役所と皆さんが共同することによって前向いて動いていきます。「何しよんぞ市役所は」って思うかもしれませんが、反目されるといい形にはつながっていきませんので、やはり共同してやっていく。我々も説明に努めてまいりますので、反目するようなことではございませんので、これからますます市民の皆様の役に立つところで市役所でなければいけないと思っておりますので、私ども一同より心を引き締めて物事に当たっていきたく思いますので、これからも皆様方どうぞご協力いただけますようお願い申し上げます。今回のタウンミーティングを終了にさせていただきたいと思います。また、必ず1カ月をめぐりに今日持ち帰らせていただいた事柄については検討させていただきます。松山市からこういう返答が返ってきた、じゃあ我々はこう思う、松山市からのまた返答はこうですよ、こういう形で一つでもいいまちづくりにつなげていければと思っておりますので、またご協力よろしくお願いたします。今日は長時間に渡りありがとうございました。

— 了 —